





心直ふ親父と一呑よとふ上戸形氣

小判丸まふ下はまう過る心の約はあつて積屋  
芝居の浪本おとせと百杯丸とて是も新役者  
智恵がまゐつて一呑のまねと親父乃手堅

勘畧と世帯茶うとて始末形氣

商人沖でふととて男一疋乃積屋  
欲は丸をまゝかき集めて手習及古  
浪持あつて一生狂山崎の乃有財徳鬼

才一世男商人は鼻毛とよあつて款人の形氣

武藏野乃廣とふれ商人屋敷家業よとてんやぐ成と家  
のゝ能おとく傳言の綿柳と出でてあら暫時をて居せと  
命かたりと採ぐれハ天理よりあひ。浪才よ分派よあつて助うら  
とつゝお子と持まうむとらも独りうらと利教あつて親れを  
と助を徳人れ後とれ若親れ身あつてハ一志存らうけつるよ  
十八の書よ元服して是も津町よあつておのゝ教めと  
身神や何よ石是をまれの安徳よ徳方うら花舞よ好  
月夜強金物扱乃扱不屋乃美が心娘と縁あつて婿相  
首尾うくおととびよよお母や一奉もねく表座の裏よ  
唐島送りとく親父是より込美れ縁と助をうらよとて高  
常六叔手勤し傳養あつておと手代二人よ後の上をたれハ



















世間  
三之巻





扱家せしめいそ業或百女のゆづり振とて今子孝周余と  
 つふ身よあり一幸町人の世世商人れ子かきとひわたり初め  
 より親れきとてまは艱難を食く。一代の申は色狂の身代り成  
 男ありけりなげめさく一も若命市も徳藝とてうせさして  
 ちいさけけりしとらんとてうせさくも世のよとれぬらるるを  
 骨とてまらぬらうらうらまらうけひあひなれ親の世智女  
 形気とてあらひ八歳より寺入しとて習学方ありをこれと  
 ちがひ徳書よとてこひして判紙を授てまらせぬ書よ被ま  
 こま書習ひとてあまらうとて大勢乃子先れ毎うひまらる友あ  
 まらけらるとむらひぬ。極く喜ぬてて日毎は厚儀を張貴人  
 形乃細人言書く人志の縁とてたけを縁とて肉あり持あ  
 介判紙きり紙つひとて自らあつる先よ一日倍まらひ

判紙とてどう一万事よりいさうとてあのも書取とてあひはあつた男が  
 物れわりの物とていさうとてあひはあつた男が物れわりの物とていさうとてあひはあつた男が  
 びとりのけして二身とてあつた男が物れわりの物とていさうとてあひはあつた男が  
 まらけらるとむらひぬ。極く喜ぬてて日毎は厚儀を張貴人  
 形乃細人言書く人志の縁とてたけを縁とて肉あり持あ  
 介判紙きり紙つひとて自らあつる先よ一日倍まらひ



世同  
二六卷  
自坐ちぬいともいそと。一箇一類うらまへんくちう。ゆふ  
おきんせんととまてらねば。あまもてあまのうらまへ。一と。一  
わのまの肉徳して。おまの事一人持持らして。あぐ。劫  
あしてまひぬ。世よまもろはま。金たあつた。あまの  
かんさ。信くハ。神長あは。このも。物物。

世同の息氣集卷三終

函徳の事ゆへに。あまの人のあまの事  
やうな。あまの事。あまの事。あまの事  
の目玉。



